

実践事例

指導内容：測定（時刻・時間）

教材と仕組み：『時間指定配達ゲーム』・・・注文票に示されているアナログ時計やデジタル時計の時刻や□分後の時刻を読み、指定の時刻の早い順に、注文票を並べ替えて、指定時刻に荷物を配達する

題材目標

知・技：プリントの●時△分（ $\Delta=46\sim60$ ）を示す時計の時刻を読むとき、プリントに●時△分を記入し、「まだ●時をすぎてない」と説明する

思・判・表：複数の注文票の時計が示す●時△分（ $\Delta=46\sim60$ ）の時刻を読んで、配達する順番を決めるとき、それぞれの時刻の長針と短針の位置について考え、配達する順番を判断し、配達する時刻が早いものから順に注文票を並べる

学び：数量の違いを理解し、数学で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする

評価規準

知・技：全5回中2回（4回目と5回目）の課題で、プリントの●時△分（ $\Delta=46\sim60$ の1分刻み）を示す時計の時刻を読むとき、自分で模擬時計や時計イラストの短針の短針が示す範囲を確認して正確に●時△分を正しく記入し、「●時になってない」などと教師にその解答になった理由を説明する

思・判・表：全3回中2回（2回目、3回目）の注文票の時計が示す●時△分（ $\Delta=46\sim60$ の1分刻み）の時刻の長針の位置と短針が示す範囲を考えて時刻を読み、自分で配達する時刻が早いものの順に注文票を並べ、指定時刻の家に荷物を配達する

学び：7時間目、8時間目で、自分から進んで、プリントタイムで課題に取り組んだり、配達ゲームで次々と注文票を見て、配達する順番を決め、荷物を指定時刻に配達したりする

三観点	評価
知識及び技能	自分で短針の位置を確認し、数字が示す範囲と●時を経過しているかどうかを判断して●時46分～60分の時刻を正しく読んだり、「まだ●+1時になってない」と教師に説明したりする姿が見られた。
思考力・判断力・表現力等	時計直線（時計を数直線にしたもの）上の数字と、注文票の指定時刻の数字を対応させながら、指定時刻の早い順に注文票を並び替えて配達をすることができるようになった。
主体的に学習に取り組む態度	プリントタイムでは、自分から進んでプリントがなくなるまで取り組む姿や、配達ゲームでは、次々と注文票を取りに行き、示されている時刻を読み、配達する順番を決めて、指定時刻に配達する姿が見られた。



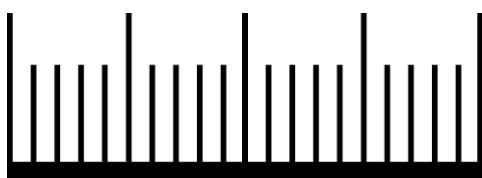
短針の位置と数字が示す範囲のつながりに目を向けて時刻を読むための働きかけの改善

望む姿	意図と働きかけ	結果	改善内容とその結果
短針の位置や数字が示す範囲を考え●時△分（ $\Delta=46\sim60$ （0））の時刻を正しく読む	数字が示す範囲に目が向くように、時計イラストの短針から目盛りの枠に向かって線を引き、短針の位置が示している範囲を確認するように伝えた	6時58分を示す時計イラストを7時58分と読むなどの姿があった	数字が示す範囲に注目できるように問題を解く際に、「●+1時に見えるね」などとはかけをしたり、できた場面で、短針の位置と示す範囲のつながりや●時を経過していないことを一緒に確認したりした結果、正確に●時△分（ $\Delta=46\sim60$ （0））の時刻を読むようになった。また、その理由を尋ねると、「●+1時を過ぎてない」と説明する姿や短針が示しているところを自分で指さす姿が見られた



注文票の指定時刻を自分で判断し、並び替えるための改善

望む姿	意図と働きかけ	結果	改善内容とその結果
自分で注文票の時刻を比べて、早い順に並び替えて配達する（●時は同じ）	注文票が示す●時△分の Δ を比べて判断するよう一緒に時刻を読み、分を示す数字が小さい方が早い時刻であることを伝えた	数の大小の判断を間違え、経過の順に並べられないことがあった	時計直線を使い、注文票が示す時刻の分と、時計直線上の数字を対応させ、0に近い数字が早い時刻であることを伝えた。教師と一緒に時計直線上の数字と注文票の時刻の分の数字を対応させて、複数の注文票を早い順に並び替えることがあるが、自分で順番を判断するようになってきた



時計直線と時計直線を使い指導している様子

授業づくりの工程

前題材までに到達している実態を把握

子どもに望む姿を想定

指導内容の決定
（研究生産物を基に）

学習指導要領の指導内容から段階を決定

題材目標の決定

教材の設定

題材設定の立場記述

題材計画構想

授業構想シートを活用

本時案作成

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

【R研】
国語・算数の授業実施日に行う、授業の評価や改善について話し合う場



次題材に向けて

今回の題材では、知・技の内容として、アナログ時計での●時△分の▲分後の時刻（ $\Delta=5, 10, 15$ ）の読み、デジタル時計での●時▲分の5分後の時刻（ $\Delta=0\sim5$ ）の読み）●時46分以降の時刻の読みを扱い、習得した知識と技能を活用できるように思・判・表の活動で、注文票の指定時刻を読み、早い順に並べる活動を計画した。学習を進めていく中で、教具を使用したり、「0時に見えるね」などと短針が示している範囲を確認して読むことばかけたりすることで、それぞれが課題としている時刻の読みは、できるようになった。しかし、思・判・表の活動で読んだ時刻を早い順に並べる際、はじめは、時刻を比べて判断することが難しかった。また、知・技の活動で時刻の読みだけでなく、時刻の早い、遅いについての知・技の獲得も必要であると考え、改善を図った。このことから、思・判・表での活動に必要な課題を分析し、それにかかわる実態を詳細に取り、授業を計画する必要性を感じた。